

2018 年度事業報告

I. 調査研究事業部門

平成 30 (2018) 年度事業計画に基づき、嗜好品と人間・社会に関する社会科学分野の調査研究や「嗜好品文化研究会」との嗜好品に関する横断的なテーマについての共同研究、およびたばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報収集、論考の取り纏めに取り組んだ。また、学術の振興を目的に、嗜好品の人文・社会科学等の分野に関する研究助成事業や研究誌、財団機関誌等を通じた普及啓発事業を実施した。

1. 調査研究事業

当年度に実施した調査研究活動は次のとおりである。

(1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究

これまでの心理学研究および社会学研究の成果を踏まえ、嗜好品に関する心理学および社会学各分野の調査・研究を実施した。心理学研究、社会学研究それぞれにおいて外部の研究者を交えた研究会を開催し、各種量的調査、質的調査の実施、及びそれら調査データを用いた分析を行った。これまでの研究成果については、継続して学会発表や論文投稿を実施した。また、心理学研究においては、外部の研究協力者との共同研究を実施した。

(2) 嗜好品文化研究

「嗜好品文化研究会」と共同で、研究会、フォーラムを開催し、「嗜好品と AI」をテーマに研究を行うとともに、大学院生に対する研究助成を行った。また、1 年間の研究成果を取り纏めた年刊「嗜好品文化研究」第 4 号を発刊した。

(3) たばこ史・たばこ産業史研究

研究助成等を通じて関係を構築した大学等研究機関の研究者や在野の研究者と連携を図り、たばこ史・たばこ産業史上有意義な文献資料等の情報を収集し、論考の取り纏めを行った。

(4) 研究関連情報の整備

調査・研究事業への効果的な活用を図るため、TASC 所蔵の書籍や研究報告書等諸情報の継続的な資料整備を行った。

2. 研究助成事業

平成 30 (2018) 年度採択の研究に対する助成及び平成 29 (2017) 年度助成研究の報告会を実施した。平成 29 (2017) 年度研究助成の成果は助成研究報告書を作成し、国

会図書館に納本するとともに、要約版と報告書全編を TASC ウェブサイトに掲載した。
また、2019 年度分の応募研究について、審査・採択を実施した。

3. 普及啓発事業

当年度に実施した普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

- ① 研究誌「談」112号～114号を発行した。
- ② 機関誌「TASC MONTHLY」508号(4月号)～519号(3月号)を発行した。
- ③ 研究誌「たばこ史研究」144号～147号を発行した。
- ④ 「平成29年度事業概要」を発行した。

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

機関誌「TASC MONTHLY」に掲載している特別シリーズ「情報テクノロジーの進展がもたらす近未来社会の姿を考える」の有識者の諸論考を TASC ウェブサイトに順次掲載し、発信情報の充実を図った。

4. 受託調査研究事業

たばこ関連資料の保管・管理

II. 博物館事業部門

今年度の入館者数は 75,537 人（対前年度 98%）となり、リニューアルオープン後 4 年間で約 27 万人のお客様を迎えることができた。開館 40 周年記念特別展「産業の世紀の幕開け ウィーン万国博覧会」をはじめ 6 回の特別展を開催し、いずれも大変好評を博するとともに（別紙 1 参照）、閲覧室やミュージアムショップなどの施設の利用も堅調に推移した。

開館 40 周年を迎え、多様な来館者の満足度向上および博物館機能の充実・強化を最優先として、下記のとおり取り組んだ。

1. 来館者サービスの向上

- (1) これまで蓄積した各種知見を踏まえ、業務・運営面での課題等への対応を適時に行い、質の高い入館者サービスの維持に努めた。
- (2) 常設展示室の音声ガイド(中国語・韓国語)の導入および来年度のスペイン語版導入に向けた準備を行った。

2. 調査研究活動

2019 年度以降の展示企画に向けたテーマおよび下記の領域・分野を中心に、「たばこと塩の歴史と文化」および収蔵資料に関する調査研究を着実に推進した。

- ・たばこ文化の発生と伝播、江戸時代の文化とたばこ、近現代のたばこ文化・産業史、塩の文化・サイエンス、産業・企業系博物館論についての調査研究
- ・「ICMAH (ICOM 国際博物館会議 考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会)」、「第 3 回塩の人類学国際会議」への参加および発表等を通じて、海外博物館についての情報を収集した。
- ・JTI が所蔵するウィーン万国博覧会関係の喫煙具展示および資料データベースの共有化を通じて JTI オーストリアとの連携を強化した。

3. 積極的な対外広報活動

(1) 情報発信活動

① 特別展の開催等

「夏休み塩の学習室」を含め年間 6 回の特別展および展示関連講演会・イベント等を開催し、質の高い情報発信に努めた。

② イベント・講座

たばしお講座（1 回）、たばしお寄席（1 回）および古文献・古文書を読む会（11 回）、「Caravan to the Future」特別映画上映会、対談およびミニ写真展（2 日間）、ワークショップイベント「講座 意外と知らない塩と暮らしのお話」（1 日）などを開催した。

③ 刊行物

- ・展示ブックレット「モボ・モガが見たトーキョー モノでたどる日本の生活・文化」
- ・展示図録
「エリザベス・ハンスコレクション MOLA ～パナマの先住民クナ族の衣装と意匠～」
「たばこと塩の博物館開館 40 周年記念特別展 産業の世紀の幕開け ウィーン万国博覧会」
「江戸の園芸熱 浮世絵に見る江戸庶民の草花愛」

④ 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

- ・来館者の利便性向上
来館者エリアの整備・保全を適宜行い、その利便性向上を図るとともに、2019 年度実施予定メンテナンス休館（7 月 9～12 日）に向け、館内補修箇所の調査に着手した。
- ・常設展示の展示替
江戸時代のたばこ文化コーナーは 7 回、コレクションギャラリーは 4 回実施した。
- ・視聴覚ホール
特別展に関連して特別映画上映会を 6 回実施した。
- ・図書閲覧室
特別展に合わせ開架図書を変える等来館者サービスの向上に努めた。

(2) 収蔵資料等のデータベース化と活用

収蔵資料等のデータベース化を進め、来館者のサービスの向上を図った。

(3) 周知広報・PR

① 所在地周知PR・アクセス案内

- ・HP、メトロ最寄り駅駅貼りポスター、メトロ総合出口案内板、電柱広告、消火栓標識広告等を通じ案内を行った。
- ・当館アクセス地図の目印、順路等について、実態に即した見直しを行った。

② 特別展・イベント等の周知

HP、リリース配信、新聞およびインターネット、交通広告、ダイレクトメール、位置情報連動型広告（ITENE）、プレス内覧会実施等、多様なメディア、手段を通じて事前周知を行った。

③ 若年層に向けたPR

YouTuber とのコラボ動画を通じて、イベント実施、ミニ写真展開催等、若年層へのPRを行った。

④ JTと連携したWeb活用

設置企業の日本たばこ産業株式会社と連携のうえ Web の更新等を行うとともに、「特別展ページ」の簡略化等 Web サイトの見直しに向け検討を開始した。

⑤ 他館等と連携したPR

- ・「すみだ企業博物館連携協議会」と連携し、5館各所のみどころを紹介する共通のチラシを作成した。
- ・東京の美術館・博物館等 92 施設の共通入館券「ぐるっとパス 2018」に加入した。

4. 地域社会との良好な関係維持

墨田区等との良好な関係維持に努めるとともに、「すみだ企業博物館連携協議会」参加館協力のもと特別展「モボ・モガが見たトーキョー」の開催、および同協議会合同企画「明治を探そう」への参加等を通じ、近隣博物館との交流を実施した。

5. 資料収集・整理・保存

(1) 史・資料保管体制の確立

収蔵資料の整理を順次進めるとともに、収蔵庫をはじめ館内の定期的な環境モニタリングおよび I P M（総合的有害生物管理）の確立を進めた。

(2) 寄贈資料への対応

寄贈資料については、資料検討委員会で評価を行い、141 件の資料を収集・登録するとともに、寄贈者への適切なリファレンスを実施した。

(3) 資料購入

29 点を購入した。

(4) ポスターの実物資料収集等

新製品のポスター、パッケージ等の資料は、継続して収集した。

6. その他の活動

(1) 職員の教育・研修

公益財団法人日本博物館協会主催の研修等に 4 回、のべ 8 名が参加した他、関連団体・学会等による研究会・研修会などへ積極的に参加した。

(2) ミュージアムショップ

オリジナル商品の製作・販売のほか、展覧会毎に関連商品の販売を行い、好評を得た。

(3) 博物館実習受入

6 大学 6 名を受け入れた。